

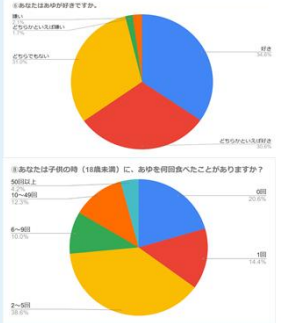
京都丹波の「あゆ」発信！

京都産業大学鈴木ゼミ

はじめに

京都丹波地域の鮎は、平安時代から京都御所に献上されるなど歴史的に高い評価を受けてきた。美食家・北大路魯山人も「丹波和知川の活鮎」として東京で提供するほどの逸品で、近年では全国大会で準グランプリを受賞するなど、味でも注目されている。京都府と鈴木ゼミが協働し、桂川・由良川流域に居住する住民の『共有財産』である「京都丹波の鮎」のブランディング戦略の方向性を鈴木ゼミの提案をもとに5つのコンセプトを定めた。

鈴木ゼミは2024年7月から12月の間にアンケートを実施し、474人から回答を得た。その回答により鮎を好きな人は多いが、鮎を子供の時に食べた回数が少ない人が多かった。そのため子どもたちをターゲットに主に「買う」「支える」「発信する」などの事業を行っている。



京都丹波鮎のブランディング

子どもや若者を対象に、「買う」「食べる」「支える」「発信する」「開発する」の5つの視点で事業を展開し、次世代への継承を目指している。

「買う」

- ・キーホルダー
- ・クリアファイル
- ・シール
- ・和菓子

「食べる」

- ・スタンプラリー



「支える」

- ・冊子
- ・オリジナルスタンプ
- ・シンポジウム



「発信する」

- ・Instagramの開設
- ・テレビ・ラジオ出演（10回）
- ・新聞（8回）
- ・イベント参加（8回）
- ・万博会場での出展等

※「開発する」は今後の展開となる

買う

鈴木ゼミは子供たちに鮎を身近に感じてもらえるようなデザインを考案



PRグッズ



鮎の和菓子

支える

鈴木ゼミはこれまでの研究成果の報告と鮎を広めるため、シンポジウム「京都丹波 あゆの魅力発信」を開催。参加者は約115名



あゆキャラコンテスト

〈内容〉

鈴木ゼミの活動報告、基調講演、子供たちからの質問、あゆキャラコンテスト、大学生による対話セッション、漁協の活動報告、「京都丹波 あゆ街道」の紹介



シンポジウムの様子

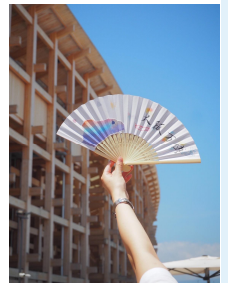
発信①

鈴木ゼミは、京都府南丹広域振興局と連携の下、京都丹波の魅力発信を行う目的でInstagramのアカウント、「京たん・あゆぐらむ」を作成。「あなたの身近に京・丹波」をコンセプトにし、近年は京都丹波に関する自然や食を中心に約100回の情報を発信している。



発信②

鈴木ゼミは、「京都丹波 あゆ街道～京都の鮎を世界に発信～」をテーマに、関西パビリオン多目的エリアでブース展示とワークショップを企画した。ワークショップでは、3種類の水を飲み比べる「利き水体験」、「鮎の甘露煮の実食」、「扇子のデザイン体験」を実施した。



鮎をデザインした扇子

ふりがな 川や水辺の名称	かつらがわ・ゆらがわ（みやまがわ・わちがわ） かつらがわ・ゆらがわすいけい 桂川・由良川（美山川・和知川）（桂川・由良川水系）	京都丹波の「あゆ」発信
所在地	京都府 亀岡市・南丹市・京丹波町	
応募者名（ふりがな） 所属団体名	きょうとさんぎょうだいがくすずきゼミ 京都産業大学 鈴木ゼミ	